



リポートク No.28



トランジション・タウン鎌倉 代表 宇治 香

鎌倉生まれ鎌倉育ち。
人・自然・社会が共生し、持続可能な方法で豊かに暮らすことを目指す市民活動「トランジション・タウン鎌倉」のプロジェクトとして地元学「鎌倉あるものさがし」を開催。鎌倉をこよなく愛し、鎌倉の歴史、文化、自然、ガイドブックに載らない鎌倉スポットや鎌倉の環境問題にも詳しく、分かりやすくユーモアあふれるガイドが人気。

鎌倉あるものさがし

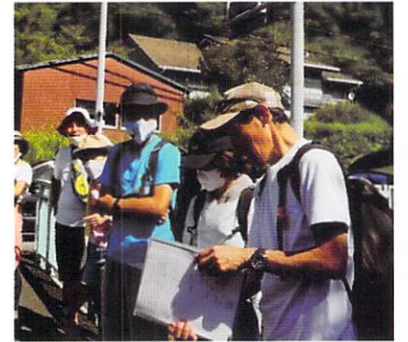
検索



地元学「鎌倉あるものさがし」

僕が育ったこの「まち」は、僕が子供の頃知っている鎌倉とだいぶ変わってしまいました。「開発」という名のもとに、沢山の自然が壊されて、生き物たちの吐息がきこえない、森の姿が見えない「都市」へと今、変化していきようとしています。「開発」という恩恵は、人々の暮らしをととても便利にしてくれたけれど、その便利さにかまけて、僕らは大切な何かを失ってはいないだろうか。そして、これから先、このまちで生きていく人々に、このまちを訪れる人々に、これ以上、見失ってはならないものを伝えていきたい。大げさかもしれないけれど、そんな思いで「鎌倉あるものさがし」を続けてきました。

この活動をはじめるときかけの一つになったのは、1964年東京オリンピックの年に起きた「御谷騒動」を知ったことかもしれません。昔は、300ほどあったといわれている「谷（やつ）」や多くの森が、昭和の高度経済成長期に次々と開発され、いよいよ源氏の御霊を祀る鶴岡八幡宮の裏山の谷「御谷」に及んだのです。「御」のつく「聖地」、「御谷」が壊されようとしたその時に、一人の主婦が立ち上がり、これを阻止したことがきっかけで、国までも動かす、一つの国法「古都保存法」が成立しました。



これはとても驚くべきことなのに、今ではその場所「御谷」はあまり知られていないし、訪れる人もほとんどいません。先人の、郷土を愛する心と、自分の土地を守ろうと立ち上がった勇気があったからこそ、今の鎌倉があるということを私達は忘れてはなりません。また、今の鎌倉のルーツとなる、「鎌倉幕府」のあった場所や、それが、二度移転された事等も、あまり知られておらず、残念に思います。そんな思いから、鎌倉の「ガイドブックに載らないところこそ、鎌倉の魅力、そして大切なものがある」という理念を基に、自分自身でガイドを務めて、まち歩きを中心としたワークショップをしようと思いました。今では色々な団体や学校、企業からのオファーも頂戴して、予想しないような長寿企画となったことに、自分自身、本当に在り難いと感謝しています。2009年からほぼ月一回開催。174回を数えます。(2023年10月時)

このまちに住む虫や自然たち、そこに集う花々や木々、歴史、文化、風土、そしてそれを守り続ける人々。鎌倉がいつまでも自然豊かで魅力的なまちであり続けられるよう「鎌倉の大事なもの」をできるだけ後世に継いでいきたいと思っています。幼稚園や学校、環境活動家や企業の方々と連携して、このまちをつくった「頼朝先輩」に恥じないよう、これからも可能な限り、続けていきたいと思っています。そして、このまちを深く知ること、学びや発見だけではなく、今までより一層、まちへの愛情と愛着が生まれ、そして更に、まちの「大事なもの」を大切に守り伝えていこうという気運が芽生えて頂ければ本望です。



第25回 かまくら市民活動フェスティバル

報告

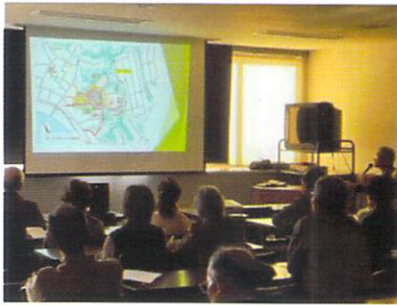
「いつものコトをもしものトキに」

12/2(土)・3(日) in きらら鎌倉



今回は関東大震災100年の節目ということもあり「防災」をテーマに取り組みました。日頃の活動がどのように「防災、減災」に繋がっているかが読み取れる団体紹介パネルも数多くあり、多くの気づきを得ることができました。また「防災」を「市民活動と地域活動」を結びつけるキーワードとしてとらえ、自治会・町内会の方々にも参加を呼びかけ、映画、講演会、報告会、シンポジウム等を企画いたしました。シンポジウムでは「平時の交流が有事の連携」という、今回のキャッチフレーズに通じる発言もあり、まさに人と人の関係づくりやコミュニティ、地域の力の向上にとって市民活動の果たす役割の大きさを実感した次第です。2日間の来場者数はコロナ禍前にもどり、出展者同士の交流はもとよりご来場いただいた市民の方々に市民活動の「今」をお伝え出来たのではないかと思います。このようなフェスティバルの成果を受け、市民活動センターとしても、様々な場づくりや情報提供、新しい関係性の創出など、皆さまの活動を支援する組織としての役割を果たしていく所存です。様々な形でご協力、応援いただいた方々に心より感謝いたします。(かまくら市民活動フェスティバル実行委員長 西畑直樹)

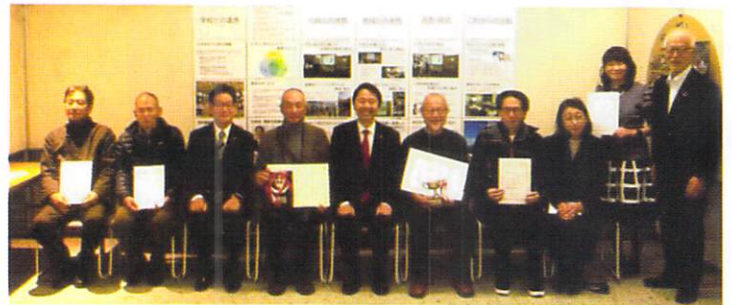
鎌倉の市民活動に大きな影響を与えた関東大震災から100年。鎌倉の「市民活動の今」を伝えたい。



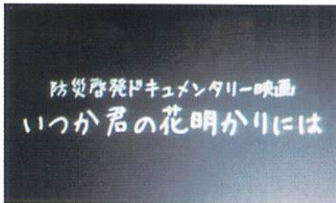
自治会の防災事例報告会



SDGsフォトコンテスト市長賞受賞者



SDGsフォトコンテスト表彰式～受賞の方々おめでとうございます！



防災啓発映画の上映



好きな本について語ろう～ブックカフェ



図書館とともだち 関東大震災復興に貢献した間島夫妻のパネル展示



講演「関東大震災から伝わるもの」



映画監督×市民団体×自治会シンポジウム



非常用にもなる！竹灯籠ワークショップ



つつい熱中、防災カードゲーム



湘南鎌倉医療大学学生による東北スタディツアー報告



シェアハート鎌倉東北支援物産展

地域の組織作りの基盤、町内自治会への加入率の減少傾向が続く一方で、災害時など地縁のつながりの強化も求められています。そんな中、地域課題に向けて先駆的な試みに取り組んでいらっしゃる町内会をご紹介します。

二階堂親和会

奥鎌倉の足助（あした）～課題解決へ住民の一步

鎌倉市の東部に位置する二階堂は、源頼朝が奥州平泉の中尊寺を模して永福寺という二階堂を建立したことに由来し、巷では「奥鎌倉」とも称され鎌倉宮（大塔宮）をはじめ荏柄天神、瑞泉寺、覚園寺などの名所や天園ハイキングコースを訪れる人も多い地域で、1,180世帯 2,700人が住んでいる。

鎌倉駅との交通手段は1時間に3本程度のバスが鎌倉宮までであるが、多くの居住地はそこから奥深く続く谷戸沿いや昭和40年代に開発された「緑苑台」「江ノ電団地」など高所にある分譲住宅地であるため、日々の生活においてどこへ行くにも移動手段を持たない高齢者にとっては大きな障壁となっている。

そんな中、買い物も困難な地域に社会福祉協議会からの発案で八百屋さんに来てもらってはどうかとの話があり、昨年移動販売業者を誘致。月に2回地域内3カ所で当初は青果とパンの販売からスタートし花や鮮魚の販売も加わり1年が経過したところである。それなりに浸透して、いずれの商品も品質がよく価格がリーズナブルで好評である。

そして今年10月、社会福祉法人きしろ社会事業会と二階堂親和会の協力により、二階堂デイサービスセンターの利用者送迎用の自動車と運転手の空き時間のご提供のもと週2日、1日あたり2便の「乗りあい車」を鎌倉宮-緑苑台-天園-瑞泉寺-江ノ電団地を巡回する形で運行することになった。

移動販売、移動支援ともに高齢者のみならず移動困難地域の住民にとっての一助となるもので引続き支援の輪を広げているところである。特に移動支援に関しては2021年1月、行政による実証実験が行われるも採算面他で折り合わず立ち消えとなった経緯があるが、こうして地域から自発的に立ち上がりまずは始めてみた段階であるため、地域内での更なる周知のほか行政の強力なバックアップが求められるところである。
(二階堂住民)



こちらNPO相談室 Cho-co-tto



NPOセンターに寄せられるさまざまな質問や相談をちょこっと解説するコーナーです。

NPOを法人化するメリット はなんでしょうか？



法人化したのちには、将来的に一定の条件を満たすよう準備して申請すれば、認定NPO法人となることも可能となります。大きな企業から寄附を受けたい場合は、認定NPO法人は寄附側の企業に税制上の優遇措置があるため、寄附をお願いしやすいです。

認定NPO法人となる寄附の要件が難しかったら『100名の署名を集めると認定NPO法人となれる道』もあります。

ゆくゆくの話であっても、準備が必要なこともありますので、ぜひセンターのNPO相談日にお越しいただき、一緒に団体の未来の姿を描きながら計画を練っていきましょう。(N)

最大のメリットは、団体が「契約の主体」となれることです。例えば、事務所を設ける時。代表者個人名義ではなく法人として賃貸借契約や不動産登記が可能となります。

仮に今、代表者所有の建物を好意によって使用させてもらっているとしましょう。いつか代表者が亡くなってしまうと、相続によって使えなくなることもあり得ます。

補助金・寄付金の交付や、委託事業の受託時に法人が条件となることも。

外国での活動の場合には、現地政府の信用を受けやすいといわれています。

また、人を雇用するにしても、雇われる側として、法人と個人とで、どちらに雇われたら安心だと思いますか。

外部の人に、団体活動のホンキの姿勢を示すことができるのが、法人化ともいえましょう。



新規登録団体のご紹介（9月～12月）

神奈川オレンジネットワーク

9月21日の世界アルツハイマーデーで神奈川県とともに普及啓発活動を推進してきたグループのメンバーが組織を刷新して、認知症の人と家族への支援活動を行う多様な人々が集うことのできる任意団体を組織しました。団体の事務所を鎌倉市今泉台に設置しました。鎌倉市の認知症支援組織とも連携して活動してまいります。

<https://kanagawaorangenetwork.org/>

クリエイティブスタジオ Casa de paño （カサ デ パーニョ）

「日常に遊び心のスパイスを」をテーマに、テキストはもちろんイラストや絵本など様々な展示やワークショップを開催予定です。地域の小さな子どももティーンも大人も、クリエイターが紡ぐ世界と一緒に旅して、ちょこっと愉快的／心躍る／ヘンテコな／スパイスを発見できる場所を目指していきます。

<https://www.casadepano.com/>



NPOセンターを使い倒そう！ メディアを活用して輪を広げよう！

NPOセンターのサイトにある「NPO活動紹介」のコーナーでは、団体ごとのページを設けて団体の基本情報や活動内容を画像入りで掲載しています。ご要望に応じてイベントの開催告知も可能です。

また、タウン誌、広報かまくら、新聞、FMラジオ、SNS、ギャラリースペースなどさまざまな地域メディアと連携し、団体の活動をPRする機会をご提供しています。ここ数年コロナで自粛していた活動の再開やイベントの告知、ボランティア募集などなどあなたの団体の広報活動のお手伝いにNPOセンターをご活用ください。



★ 広報 かまくら

助成金講座

非営利活動のNPO団体にお金の悩みは尽きません。毎年好評の助成金講座を開催します。

日時：令和6年 1月30日（火）18：00 ～ 19：30

会場：NPOセンター鎌倉 2階

講師：水澤 麻美

（認定NPO法人 鎌倉あそび基地「学童保育ふかふか」・「フリースクールLargo」代表）



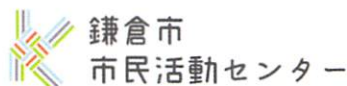
年末年始休館のお知らせ

鎌倉・大船両センターともに令和5年12/29（金）～令和6年1/3（水）の間は休館となります。令和6年度4月利用の会議室予約は1/4（木）開始です。皆様、良いお年をお過ごしください。



皆様の声をお聞かせください

広報紙「パートナーズ」のご感想やNPOセンターへのご意見、ご要望をお聞かせください。今後のセンターの課題提起として取り組ませていただきます。右のQRコードを読み取っていただくとそこから回答できます。



NPOセンター鎌倉：〒248-0012 鎌倉市御成町18-10 鎌倉市役所 第2分庁舎
TEL/FAX：0467-60-4555 E-mail：npo@chive.ocn.ne.jp

NPOセンター大船：〒247-0061 鎌倉市台1-2-25（たまなわ交流センター1階）
TEL/FAX：0467-42-0345 E-mail：npo2@abelia.ocn.ne.jp

登録団体数：323団体
令和5年12月13日現在

※登録団体の登録内容（連絡先・代表者・活動内容等）に変更があった場合は、速やかにお知らせください。



晴天の11月3日文化の日、第23回目の「NPO支援 かまくらファンド公開審査会」が、たまなわ交流センターで開催されました。この「かまくらファンド」は、活動資金の調達が難しい市民活動団体に対して、NPOセンターに寄せられた寄附金で資金助成するシステムで「市民が市民を支える土壌」を培う環境をつくりあげingことを目的に2001年に生まれました。行政に頼らず、市民の方々の温かいご寄附や運営会議会員の会費などによって支えられ、市民活動の活性化への願いを込めた基金です。

この審査会では、昨年までの22年間で、110事業に約750万円の助成を行ってまいりました。企業・寺院や大船センターに設置している「玉手箱」、フェスティバル開催時のバザー等へのご寄附により、その半分を支えていただいております。NPO法人が自力で助成金を交付することは殆んどなく、困難な事業であります。小規模ながら継続することの大切さを痛感しております。多くの市民活動団体がコロナ禍を克服し、以前のように活発な活動を再開しています。今後も、『かまくらファンド』で継続してご支援できますよう、ファンド部員一同努力し、充実させてまいります。みなさまにおかれましても、市民活動の活性化のためご寄附等のご支援をよろしくお願い申し上げます。

認定NPO法人 鎌倉市市民活動センター運営会議 ファンド部会リーダー 平塚 優








審査委員

- 市川昇一郎（鎌倉市七里ガ浜小学校講師（前富士塚小学校校長））
- 岡田 龍子（鎌倉市市民活動センター運営会議 正会員）
- 河野 匡孝（社会福祉法人 鎌倉市社会福祉協議会 地域福祉課 課長）
- 瀧澤 博（鎌倉市市民防災部次長）
- 手塚 明美（一般社団法人 ソーシャルコーディネートかながわ 代表理事）

今年の公開審査会は、事前の書類審査を経た、6団体で審査を行いました。各団体の熱のこもったプレゼンテーションの後、審査が行われ次の5団体に助成金が授与されました。

助成事業（団体名）と使途の概要

	事業名（団体名） ▶ 助成金の使途
	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者・高齢者のための音楽セッション シュピーレン ・音楽支援訪問コンサート（音楽支援 シュピーレン♪） <p>▶ 音楽支援に使用する①電子ピアノ1台 ②タンバリン15個 購入</p>
	<p>子どものグリーフケア プログラム事業（NPO法人あわい設立準備委員会）</p> <p>▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ホースセラピー出張プログラム費 ②ワンタッチタープテント代 ③子どものグリーフケアプログラム用備品・玩具代
	<p>スマホの使い方サロン（The 和み Space Connected）</p> <p>▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ①スマホの使い方サロンの会場費 ②ホームページ維持費 ③チラシ制作費
	<p>オレンジハロウィン2024（今泉台オレンジライン）</p> <p>▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ハロウィン飾りつけ費用 ②子供たちに配るお菓子 等
	<p>幼児向けプログラミング講座（特定非営利活動法人 鎌倉シチズンネット）</p> <p>▶ 講座向けのタブレット端末調達</p>